

## 米国短期社債戦略ファンド2015-12

(為替ヘッジなし)

(愛称) ドルサイくん2015-12

単位型投信／海外／債券

繰上償還 第9期 2020年1月27日償還  
作成対象期間 (2019年11月28日～2020年1月27日)

第9期末 (償還日 2020年1月27日)	
償還価額	10,123円83銭
純資産総額	434百万円
第9期	
騰落率	+2.4%
分配金	—

◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 運用報告書についてのお問い合わせ  
フリーダイヤル 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

### 受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

このたび「米国短期社債戦略ファンド2015-12(為替ヘッジなし)(愛称：ドルサイくん2015-12)」は、信託約款の規定に基づき、2020年1月27日をもちまして繰上償還いたしました。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての社債等へ実質的に投資することで、安定した利息収益を確保するとともに、トータルリターンの獲得を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

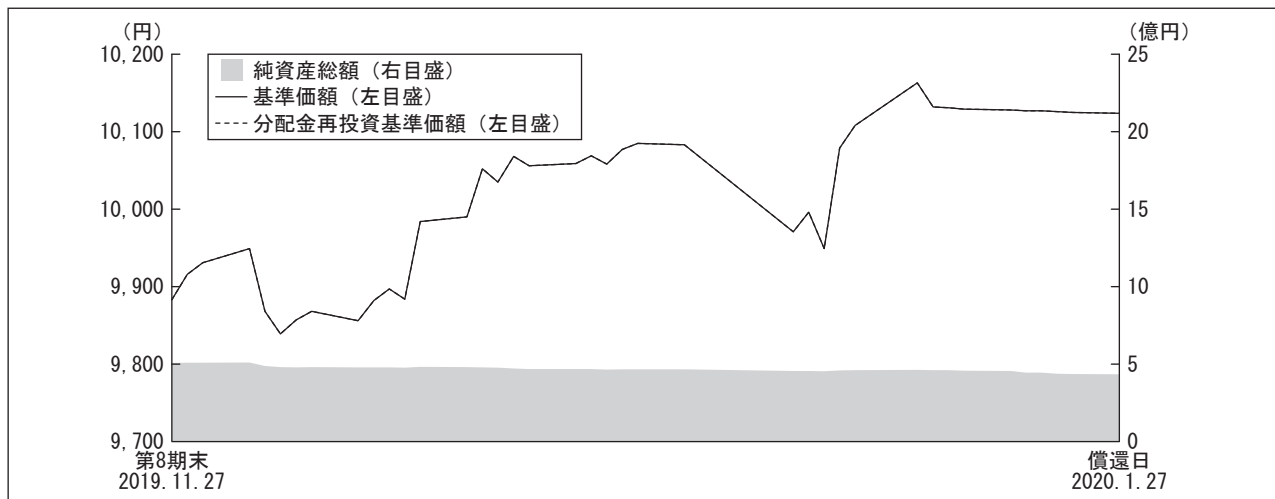


三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

## 運用経過

### 【基準価額等の推移】



\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

\*分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を基準に算出しております。

\*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\*単位型投資信託は実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

第9期首：9,883円

償還日：10,123円83銭（既払分配金 ー）

騰落率：+2.4%（分配金再投資ベース）

### 【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、Goldman Sachs Funds S.I.C.A.V. Goldman Sachs Short Duration Opportunistic Corporate Bond Portfolio Class IX0 Shares (Cap MDist)への投資を通じて、主として米ドル建ての社債等へ実質的に投資を行いました。

（上昇要因）

NOBLE HOLDING INTERNATIONやADIANT US, LLC、TEVA PHARMACEUTICAL等の組み入れがプラスの寄与となりました。また、セクターレベルでは、コミュニケーション・サービスやエネルギー、耐久消費財等への投資がプラスの寄与となりました。

為替市場では、1月中旬に米国とイランの全面的な軍事衝突が回避され、中東の地政学リスクが後退したことなどを背景に米ドル高・円安が進んだことが、基準価額の上昇要因となりました。

（下落要因）

TPC GroupやGULFPORT ENERGY CORPORATION、SPRINT CORPORATION等の組み入れに加えて、ファンド全体の米国金利デューレーション\*のヘッジポジションがマイナスに作用しました。また、セクターレベルでは、素材等への投資がマイナスに作用しました。

為替市場では、1月初めに米軍がイラクの首都バグダッドでイラン革命防衛隊の司令官を殺害し、中東情勢が悪化すると警戒感が高まったことなどから円高・米ドル安が進み、基準価額の下落要因となりました。

\*デューレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

【1万口当りの費用明細】

項目	当期		項目の概要
	2019年11月28日～2020年1月27日		
	金額	比率	
信託報酬	32円	0.316%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,007円です。
（投信会社）	(19)	(0.193)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(12)	(0.119)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(0)	(0.005)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.001	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.001)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	32	0.318	

\*「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

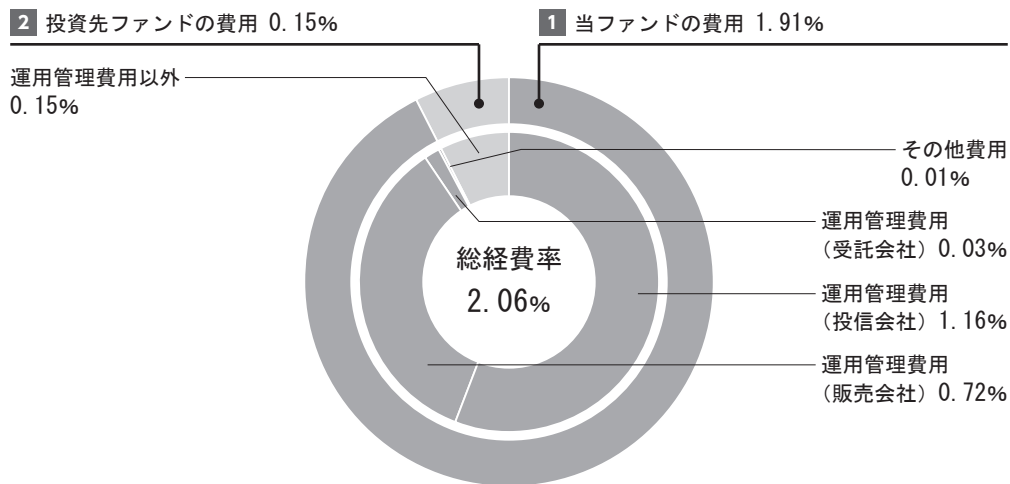
\*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

\*各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

\*各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

## 参考情報 総経費率（年率換算）

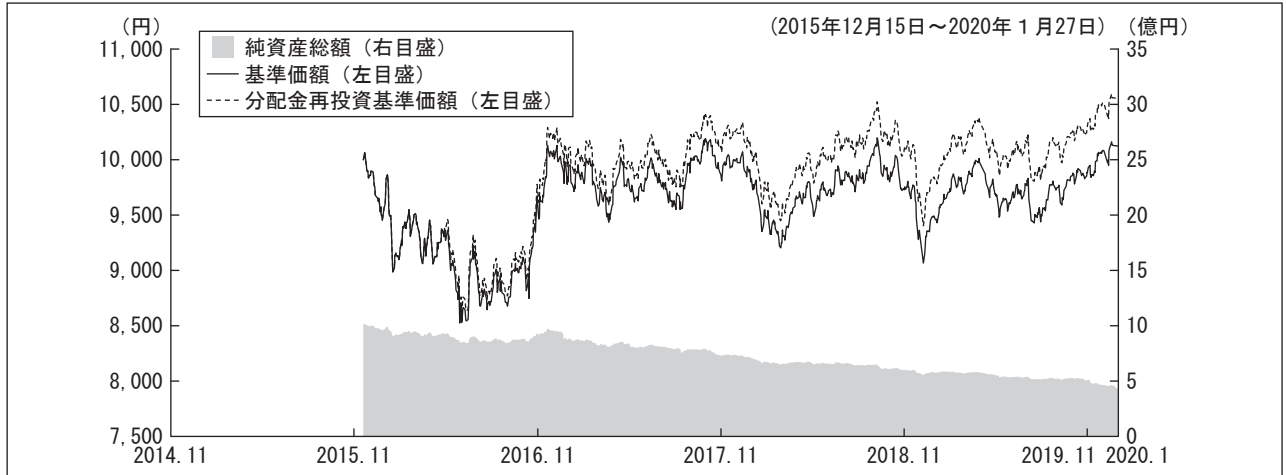


総経費率 ( <b>1</b> + <b>2</b> )	2.06%
<b>1</b> 当ファンドの費用の比率	1.91%
<b>2</b> 投資先ファンドの費用の比率	0.15%

- \* **1**の各費用は、前掲「1万口当りの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。「1万口当りの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。
- \* **2**の投資先ファンド（当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く））の管理報酬等は当ファンドの委託者報酬から支弁されるため、投資先ファンドの運用管理費用はありません。  
また、投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。
- \* **1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。
- \* 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率換算）は2.06%です。

## 【最近5年間の基準価額等の推移】



\*当ファンドの設定日（2015年12月15日）より表示しております。

\*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

\*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\*単位型投資信託は実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

	2015年12月15日 設定日	2016年11月28日 決算日	2017年11月27日 決算日	2018年11月27日 決算日	2019年11月27日 決算日	2020年1月27日 償還日
基準価額 (円)	10,000	9,497	9,860	9,727	9,883	10,123.83
期間分配金合計（税込み） (円)	—	150	100	100	50	—
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.5	4.9	△ 0.3	2.1	2.4
純資産総額 (百万円)	1,011	918	731	600	508	434

## 【投資環境】

当期の米国社債市場は、投資適格社債市場のリターン、ハイ・イールド社債市場のリターンともに、米ドルベースでプラスとなりました。

当期の米国国債利回りは、前期末対比で、2年物、10年物のいずれも低下しました。

2019年の12月中旬に米中通商協議が「第1段階の合意」に達した局面などでは利回りが上昇しましたが、償還にかけて、中国の新型コロナウイルスによる肺炎感染の拡大がグローバルの経済活動を減速させるとの懸念が高まった局面では、利回りが大幅に低下しました。社債市場は、償還にかけて、新型コロナウイルスによる悪影響が企業収益を圧迫すると懸念が高まり、スプレッドが拡大する局面もあったものの、FRB（米連邦準備制度理事会）やECB（欧州中央銀行）のハト派的な姿勢により一部のリスク資産にとって適温相場が続くと期待等を背景に、投資適格社債、ハイ・イールド社債のスプレッドは前期末対比でいずれも縮小しました。

国内短期金融市場では、期初-0.21%近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、期を通じて上昇基調で推移し-0.12%近辺で償還日を迎えました。

## 【ポートフォリオ】

### ■米国短期社債戦略ファンド2015-12（為替ヘッジなし）

主要投資対象であるGoldman Sachs Funds S.I.C.A.V. Goldman Sachs Short Duration Opportunistic Corporate Bond Portfolio Class IX0 Shares (Cap MDist)を期を通じて組み入れました。その後、2020年1月の償還に向けて全売却し、2020年1月27日に繰上償還いたしました。

### ■Goldman Sachs Funds S.I.C.A.V. Goldman Sachs Short Duration Opportunistic Corporate Bond Portfolio Class IX0 Shares (Cap MDist)

当期のポートフォリオのリターンは、米ドルベースでプラスとなりました。2019年12月末時点での組入比率については、社債が約88%、現金等が約12%となりました。

### ■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

※設定以来の運用経過につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

### 【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 【分配金】

分配金につきましては、償還のため、分配は行っておりません。

## お知らせ

該当事項はございません。

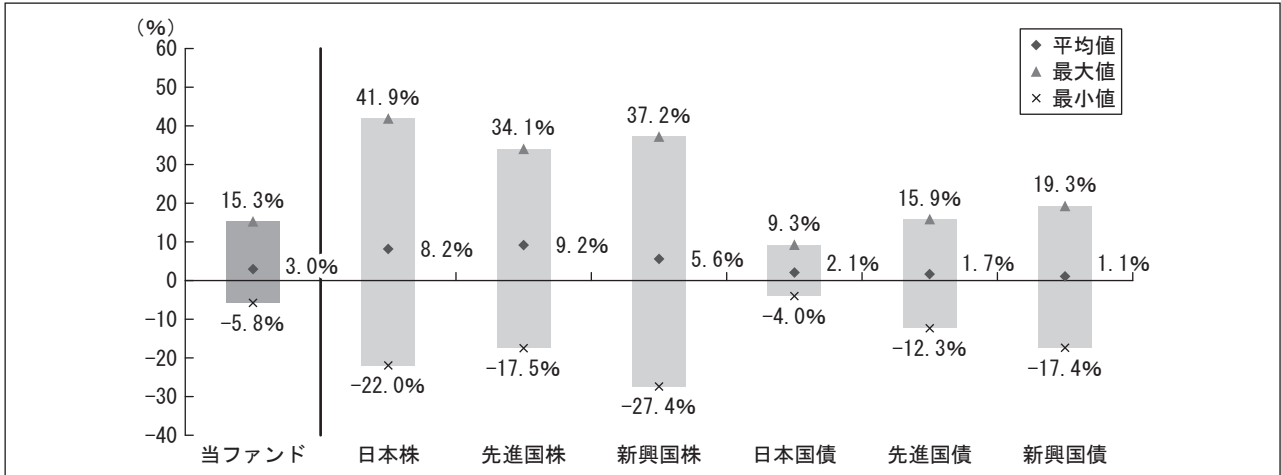
## 当該投資信託の概要

商品分類	単位型投信／海外／債券	
信託期間	2015年12月15日から2020年1月27日（当初、2023年11月27日）までです。	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての社債等へ実質的に投資することで、安定した利息収益を確保するとともに、トータルリターンを獲得を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>Goldman Sachs Funds S.I.C.A.V. Goldman Sachs Short Duration Opportunistic Corporate Bond Portfolio Class IX0 Shares (Cap MDist)投資信託証券</li> <li>キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券</li> </ul>
	Goldman Sachs Funds S.I.C.A.V. Goldman Sachs Short Duration Opportunistic Corporate Bond Portfolio Class IX0 Shares (Cap MDist)	主に米ドル建ての社債等
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。</li> <li>・原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動による影響を受けます。</li> <li>・2019年10月28日の既払分配金を含む基準価額（1万口当たり、税引前。以下同じ。）が10,500円未満となった場合、信託期間を4年延長し、信託期間終了日を2023年11月27日とします。</li> <li>・毎営業日において、既払分配金を含む基準価額が目標水準を超えた場合、上記にかかわらず、実質的にわが国の短期金融商品等の安定資産による運用に順次切り替えを行い、ファンド全体が安定運用に入った後、繰上償還します。ただし、既払分配金を含む基準価額が目標水準を超えてから満期償還日までの期間が短い場合、繰上償還を行いません。</li> <li>・目標水準は、2019年10月28日以前は12,000円とします。信託期間を延長した場合の2019年11月28日以降は10,500円とします。</li> <li>・2019年10月29日から2019年11月27日の期間においては、繰上償還の判定を行いません。</li> <li>・既払分配金を含む基準価額が目標水準を超えた場合、速やかに対円で為替ヘッジを行います。</li> </ul>	
分配方針	<p>毎年5月、11月の27日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、原則として以下の方針に基づいて分配を行います。</p> <p>分配対象額の範囲は、元本超過額または経費控除後の利子・配当収益のいずれか多い金額とします。分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p>	



## 【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2016年12月～2019年12月  
代表的な資産クラス：2015年1月～2019年12月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

\*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

\*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

### <各資産クラスの指数について>

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

（注）上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

## 当該投資信託のデータ

### ≪当該投資信託の組入資産の内容≫

償還日現在、有価証券等の組み入れはありません。

### 【純資産等】

項目	償還時
	2020年1月27日
純資産総額	434,538,434円
受益権総口数	429,223,439口
1万口当り償還価額	10,123円83銭

\*当期中における解約元本額は84,845,520円です。